

◆teku-teku 2009★関内外OPEN！（活動記録）◆

企 画■アートは街を変えられるか ～関内外OPENのチャレンジ～

（横浜における衰退地区の活性化事業最前線と芸術不動産の試み）

日 時■2009年9月6日（日）13時頃～17時半頃

コース■第一部：寿町 hostel ビレッジ・プロジェクト（13:30～14:30）

第二部：本町ビル・シゴカイ／open-studio（14:30～15:00）

第三部：関内外OPENスタジオガイドツアー（15:00～17:30）

YCC（旧 BankART1929）～野毛 Hana＊Hana＋マリヤビル～黄金町バザール＋BankART 桜荘
～横浜橋アートピクニック

参加者■◎濱本智子、井手幸人、大竹 亮（以上3名、敬称略、◎コーディネーター）

企画主旨■横浜では、創造都市戦略の一環として、衰退地区を活性化するためにアートを活かしたまちづくりが進められています。簡易宿泊所が集まる寿町での hostel ビレッジ、防犯まちづくりに取り組む黄金町バザール、都心業務地区の空きビルを活用するシゴカイなど、その試みは非常に多彩です。今回は、それらを一斉開放する「関内外OPEN！」という催しに参加し、アートが街を変える力について考えてみましょう。

<参加レポート> 横浜における衰退地区の活性化事業最前線

1◆寿町プロジェクト

■■KOTOBUKI オルタナティブ・ネットワークの活動

横浜・寿町エリアは、日本三大ドヤ（簡易宿泊所）街の一つである。住人の高齢化、ドヤの空き室が目立ち始めた（寿町には簡易宿泊所が110軒、部屋数が約7700室あり、使用しているのが約6000室、空いているのが約1600室）この地区において、アーティストやクリエイター、プロデューサーをはじめ文化芸術に携わる様々な活動の担い手たちが中心となり、地区を再生し、多様な人々が共生できる場にしていくことを目的として、様々な活性化プロジェクトが展開されている。

そうした活動の中心にあるのが、KOTOBUKI オルタナティブ・ネットワーク（文化芸術等を活かした横浜寿町地域活性化プロジェクト実行委員会）で、横浜寿町地域における文化芸術活動基盤整備事業として、市より横浜市先駆的芸術活動助成（※1）70万円、その他の助成（財団法人文化・芸術による福武地域振財団／メセナ種まき基金〈第1号〉）を得て、学生も参加し、様々なイベント活動（未来カフェ、寿クリーニング、寿オルタナティブ・スタジオ等々）を実施している。



寿オルタナティブ・ネットワークの活動展示



ヨコハマ・ホステルビレッジのフロント

■■ヨコハマ・ホステルビレッジ

コトラボ合同会社（代表：岡部友彦）が手がける「ヨコハマ・ホステルビレッジ」は、寿町地区の簡易宿泊所の2割にあたる空き室約1600室をバックパッカー等の観光客用のゲストハウスに変え、日本だけでなく海外の観光客をも街に呼び込み、新たな雇用、多世代・多人種との交流等を生み出すことで、街の再生を図ろうと、2005年に始まったプロジェクトである。今年で4年目を迎え、昨年の7月に4つ目のゲストハウス「ホステル（※2）水明荘」を改装オープンさせている。

・ヨコハマ・ホステルビレッジのフロント

「ヨコハマ・ホステルビレッジ」は4つのゲストハウスから成る。それらのゲストハウスのチェックインの手続きは1つのフロントで行われている。ネットや電話で泊まりたい部屋を予約し、当日ここで料金を支払い

チェックインすれば手続きは完了。ゲストハウスまでの行き方や使い方についてもここで教えてくれる。

・ホステル林会館

フロントの向かい側にある宿泊料 3000 円（半額がエイジェントへの経費や コトラボが請け負うリネンと清掃費用や広報等の活動・宣伝資金となる。オーナーには空いているよりは 1500 円でも収入があればいいと説得する）の「ホステル林会館」は、5 階からがホステルになっており、階段を上がると中廊下を挟み、三畳一間の部屋がズラリと並んでいる。林会館は屋上を活用できると聞き、上がってみると、寿町にいることを忘れるような緑の多い屋上庭園が目の前に広がる。

2◆BankART1929 と本町ビル

■■BankART1929

都心業務地区の再生を目的に、横浜の財産である歴史的建造物や港湾倉庫などを活用し、都市を活性化するプロジェクト（※3）の一つとして、横浜市都市計画局都心部整備課と都市デザイン室の管轄で 2 年間の期間限定としてスタートした。BankART1929 馬車道（1929 年竣工の旧富士銀行横浜支店）と BankART1929yokohama（1929 年竣工の旧第一銀行横浜支店）の 2 つの施設の運営団体の公募が 2003 年 11 月に行われ、応募があった 24 団体の中から 2 団体が選ばれた。その後法人化し、NPO 法人 BankART1929 として活動を展開している。

横浜市は場所代と水光熱費を負担するほか、運営委託費と事業補助金（人件費・設備費・簡単な改修工事なども含む）で年間約 6,000 万円をこのプロジェクトに割り当てている。BankART1929 は、現在までにスペースレンタル、スクール、パブなどの収益事業によって運営資金約 6,000 万円を生み出し、収益の再投下を行っている。なお、BankART1929 馬車道には、2005 年に東京芸術大学大学院映像研究科が誘致された。

・BankART1929yokohama

建物は 1929 年竣工の銀行建築であり、北仲通南地区の再開発に当たり、鋭角の交差点角にある特徴的な歴史的建物を曳家保存し、超高層の再開発ビル（UR 都市再生機構も入居）と一体化されたデザインで今も交差点に面している。1 階のホールでは、広くて天井の高い銀行建築を活かし、無料で入れるアート展示のほか、芸術と料理が融合した食堂ビル 1929 や、オペラの公開ゲネプロなど、街に開かれ、人々の相互作用を触発するようなイベントが多数企画されている。2008 年からは、横浜クリエイティブシティセンター（YCC）として創造都市戦略の推進拠点となっており、BankART1929 の活動拠点は、BankART Studio NYK（旧日本郵船倉庫）に移った。なお、今回の関内外 OPEN スタジオガイドツアーも、ここを出発点としている。



BankART1929yokohama に活用された建物内部



北仲ブリック＆ホワイト（旧帝蚕倉庫）の建物

■■本町ビル・シゴカイ

歴史的建物を活用して都心部再生を図るプロジェクトの一環として、期間限定（2005 年 5 月～2006 年 10 月）で「北仲ブリック＆ホワイト」が行われた。北仲通北地区の再開発で取り壊される予定の旧帝蚕倉庫の事務所 2 棟を活用し、クリエイターやアーティストに貸し出したもので、50 ものアトリエ＆スタジオ群が出現し、暫定利用とはいえ、新しい動きを生み出す可能性が予感された。内部は自由にリノベーションされ、一斉に開放するイベント「北仲 OPEN!」も数回開催されている。なお、再開発事業においても、隣接する横浜第二合同庁舎（1926 年竣工の旧生糸検査所の保存再生）との連続性を考慮し、ブリック棟と倉庫 1 棟が保存活用されることになった。（再開発事業はその後の経済情勢によって休止中）

北仲ブリック＆ホワイトの期間終了後、一部のアトリエ＆スタジオは BankART1929yokohama に隣接する本町ビル（1929 年竣工）の 4～5 階に移り、2006 年から「本町ビル・シゴカイ」として活動を継続している。（その後、本町ビルの取り壊しに伴い、2010 年に「宇徳ビル・ヨンカイ」に移転）

・ 45シゴカイボン

本町ビル・シゴカイには、15のクリエイターやアーティストが入居し、シゴカイ住民会議（オープスタジオ）開催や活動集「45シゴカイボン」発行などを行っている。シゴカイ本によると、ここには2つのタイプの部屋の設えがあるという。1つは「明快オフィス」であり、もう一つは「神秘アトリエ」だそうだ。訪れてみた印象も、実際その通りであった。例えば、K設計事務所の開かれた入口には、植物とワインが飾られ、内部は多数のワークデスクや書棚が美しく整頓されている。一方で、Mスタジオでは、水槽や金網、フィルムなどが実験施設や展示標本のように存在している。

今回の関内外OPENは、北仲OPENでもそうであったが、それぞれのスペースでアーティストとお話ができるとてもいい機会である。

・ 芸術不動産

本町ビル・シゴカイの一角に「芸術不動産」という巨大な看板を掲げたスペースがある。S建築事務所の横浜分室であるが、内部に設計事務所らしさはなく、デスクと応接セット、壁には横浜の巨大な地図が張られている。そう、ここは芸術不動産の戦略本部指令室なのだ。

芸術不動産とは、街の活性化を図るために、空き家となっている民間の賃貸物件を借り上げて、芸術文化の創作の場とする概念である。アートコミッション・ヨコハマ（横浜市と横浜市芸術文化振興財団が共同運営）が主体となり、「芸術不動産モデル事業」（アーティスト拠点形成事業）を実施している。これは、2年以上の利用が可能で1軒（あるいは1フロア）丸ごと賃貸できる物件で、この事業により不動産価値の向上が見込まれるような物件をオーナーから借りて、低家賃でアーティストやクリエイターに提供するものである。



シゴカイが入居する本町ビルの正面入口



さながら芸術不動産の戦略本部のような一室

3◆野毛地区への展開

■■野毛 Hana＊Hana

野毛地区街づくり会を運営母体とするコミュニティ施設として、地域の情報発信と文化創造の拠点となっている。施設内には、「メディアギルド」という共同オフィスを持ち、映像メディアを中心にした活動の個人、団体が活動を行っている。また、フリースペース（多目的なギャラリー/イベント会場）が3つあり、レンタルスペースや自主企画会場として活用されている（*4）。

当日見学させていただいた中では、NPO法人ザ・ダークルーム・インターナショナルの写真暗室レンタル事業が、広い暗室の内部体験とともに印象に残った。



レンタル写真暗室のある野毛 Hana＊Hana



野毛マリヤビル・ホワイトの1階ショップ

■■野毛マリヤビル・ホワイト

日ノ出町至近、大岡川沿いに建つ白いビルは、横浜の老舗会社の建物オーナーが、横浜市と横浜プランナーズネットワークの協働事業“空き家活用相談”へ問い合わせたことを契機に、アーツコミッション・ヨコハマが「芸術不動産」としてリレー、それを BankART1929 がリレーし、新たなクリエイターの芸術文化拠点としてオープンした（*5）。

1～2階はニブロールのショップ&アトリエ・スタジオ（1階：ニブロールアバウト・ストリートショップ、2階：ニブロール・ダンススタジオ）となっており、3階は、BankART かもめ荘サロンとして、主に大学など地方から BankART のスタジオを利用するチームにスペースを提供し、サロンとして活用されている。4階は BankART かもめ荘レジデンスという海外から来た芸術家等に居住+アトリエとして提供する空間があり、屋上はペントハウスと屋上野菜園として利用されている。

4◆初黄・日ノ出地区の再生

■■黄金町バザールと防犯まちづくり

・日ノ出町の思い出

大岡川に沿って延びる野毛から日ノ出町にかけての地域は、間口一軒ぐらゐの飲み屋が軒を連ねている地域で、わざわざそこを目指して来る所ではない。20 数年前であろうか、宮内康先生(1937ー1992)と都市病理の研究の一環(?)でこの地区を訪れたことがある。日ノ出町の中でも、違法な飲食店街は一種異様な地区で、赤とピンクのネオンの通りに女性が立ち、カウンター内には客はいなく女性らしき人が奥の椅子に座っている。全体にボ～とした赤っぽいネオンの色で女性達の顔もよくわからない。「おにいさん」という声が降りしきり、緊張し一気に通り抜けたのを思い出す。

・一斉取り締まり

違法な風俗店などが 250 軒ほども連なっていた初黄・日ノ出地区（初音町、黄金町、日ノ出町）の飲食街は、4 年前に一斉取り締まりが行われて風俗関係の店は撤去されたが、店舗は放置され、160 ほどが空き店舗状態であるため、治安悪化が懸念されていた（*6）。そこで、クリエイティブな発想を持つアーティストやクリエイターの能力を活かし、人気のない空き店舗を賑わいのある空間に仕立てていこうという取り組みが、横浜市中区役所と創造都市推進課で進められた。

・黄金町バザール

アーティストや、クリエイターにこの場所を知ってもらおうと、2008 年秋に第一回の「黄金町バザール」が開催され、今回は2回目になる。設計集団「みかんぐみ」による京急電鉄高架下を使ったスタジオ+飲食店+展示スペースの建設や、Bank Art1929 が管理する黄金町のレジデンス（海外の芸術家等が作品を創るための宿泊等に活用）などが核になり、若い人を呼び込み始めている。

訪れた時は、たまたま黄金町バザールの開会式が行われていたが、横浜市長や県警本部長も自ら出席しており、防犯まちづくりに対する行政当局の強い意気込みが感じられた。また、空き家を活用したアートの展示や改修工事などが行われており、躍動し始めようとする活力を感じた。



黄金町エリアマネジメントによる防犯拠点



京急電鉄高架下を活用したスタジオ+展示施設

5 ◆横浜橋商店街の活性化

■ ■よこはまばしアートピクニックＴＯＣＯ

今回見せていただいた空き家の再生は、伊勢佐木町から5分程度の横浜橋商店街近くある、築50年で空き家になって20年放置されていた木造2階建て、93㎡の物件である（所有者は銀座で画廊を営んでいる鶴見区在住の方らしい）。芸術不動産モデル事業第1号として、建築家の佐々木龍郎氏監修により、関東学院大学の大学生によって改修された。家賃が安い上、当初は助成金も受けられるメリットがついている。1階が展示スペース、2階がクリエートスペースとして活用されていた。

まだ活用され始めて日が浅いので、場の広がりというものが感じられなかったが、これから人が出入りし、周辺の方々にもこの場所の意味が理解されてくると、活力のある場になりそうな予感がした。作品を制作する都合上、2階の窓のカーテンを閉めているのだろうと思うが、外から制作中の作品が見えると、買い物帰りにこの道を通りたくなるのではないか。



庶民派の活気あふれる横浜橋商店街



理髪店を転用した芸術不動産ＴＯＣＯ

【参考資料等】

(※1) 横浜市先駆的芸術活動助成：

アーツコミッション・ヨコハマは、先駆的・実験的な芸術文化の発信を目的に、横浜市先駆的芸術活動助成（旧名称：横浜市創造的文化芸術活動支援事業補助金）を実施している。平成20年度は、66件の中から13件の事業が決定している（交付総額500万円）。

(※2) ホステル：簡易宿泊施設

(※3) 横浜都心部の歴史的建物の再生活用については、TEKU・TEKU 編「まち歩きガイド東京+」（2008年）の「横浜関内」の項を参照。

(※4) 関内外OPENのホームページより

(※5) 野毛マリヤビル・ホワイトのパンフレットより

(※6) 季刊「わ」福岡市文化芸術振興財団機関誌2008春号より

※このほか、当日入手したパンフレットや各種の公式ホームページを参考にしました。

＜参加者のコメント＞

○市内各地のタイプの異なる町で、アート活動が生活に入り込んで町を変えていて、さすが横浜だと思いました。（H・T）

○寿町、野毛、日ノ出町と再生が難しい地区に、すんなりと入り込み、「まちの雰囲気を変えていく」アートと若い方々の力というもの実感したまち歩きでした。（I・Y）

○市内各地にユニークなアート活動の拠点ができつつありますが、それがいかに回りに波及して街を変えていくのか、自律的な街のメカニズムを形成できるのかについては、これからが正念場だと思います。注目していきたいですね。（O・R）

注：このレポートは、2009年9月6日に「関内外OPEN」というイベントで一般公開された各施設を訪れて得た情報と印象をもとに、2009年9月16日に井手が作成し、大竹が文章の一部（本町ビル、Hana*Hana等）と写真を追補したものである。